





■き頃より
姫様は愛らしく
やさしく生命力に
満ち溢れ 光り
輝いていた…

まるで
女神の様に
……

おいらの心は
その小さな
女神への崇拝で
一杯になり…
いつも
姫様だけを
見つめていた…



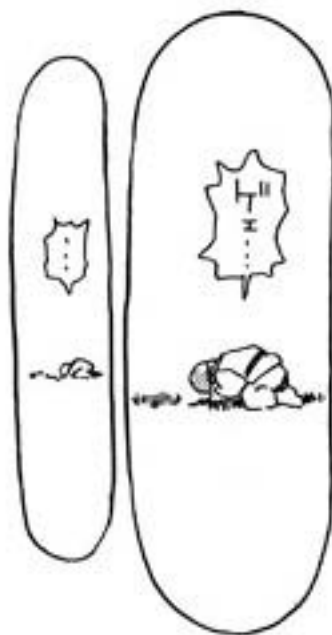
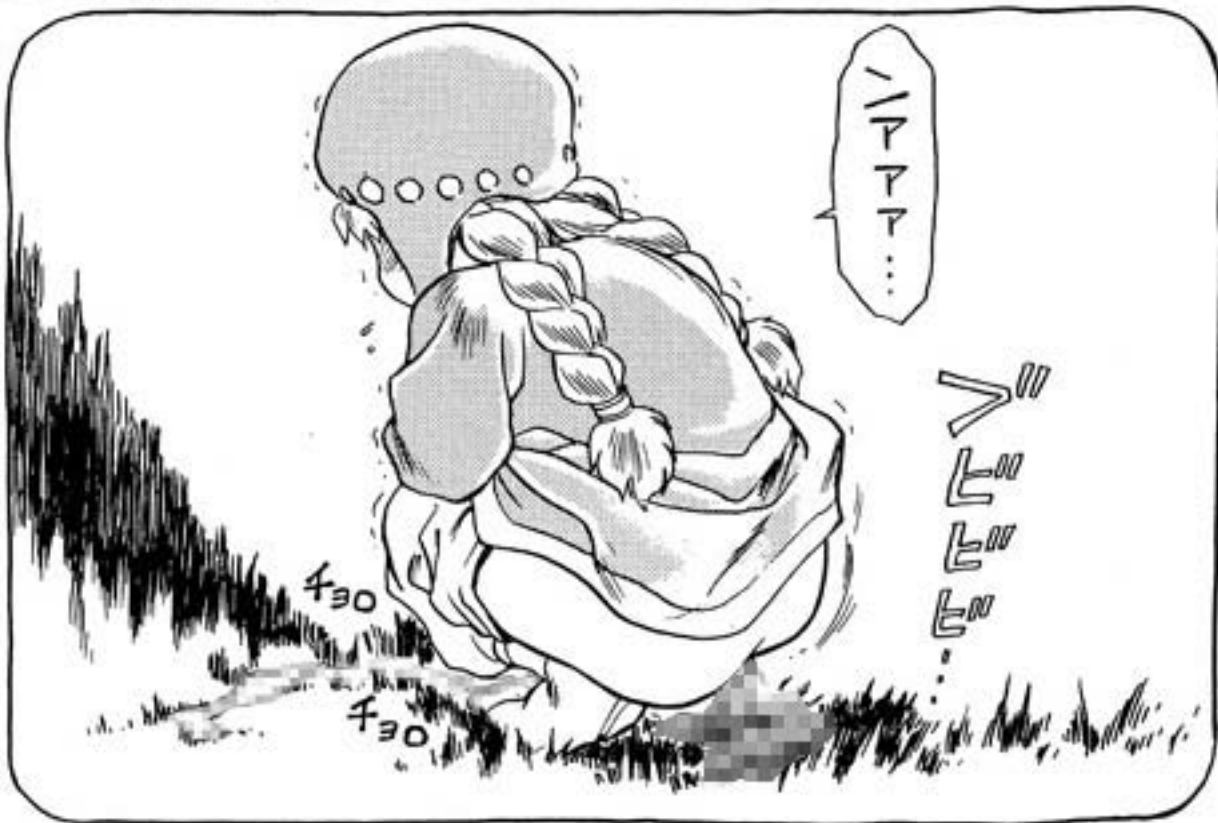
だからあの日
皆に気づかれ
ないように
こっそりと…

遊びの輪の中
から外れ…
森の中に入って
行った姫様に
気がついた
のはおいら
だけだった



おいらはそこで
見てはならない
モノを見て
しまったんだ…





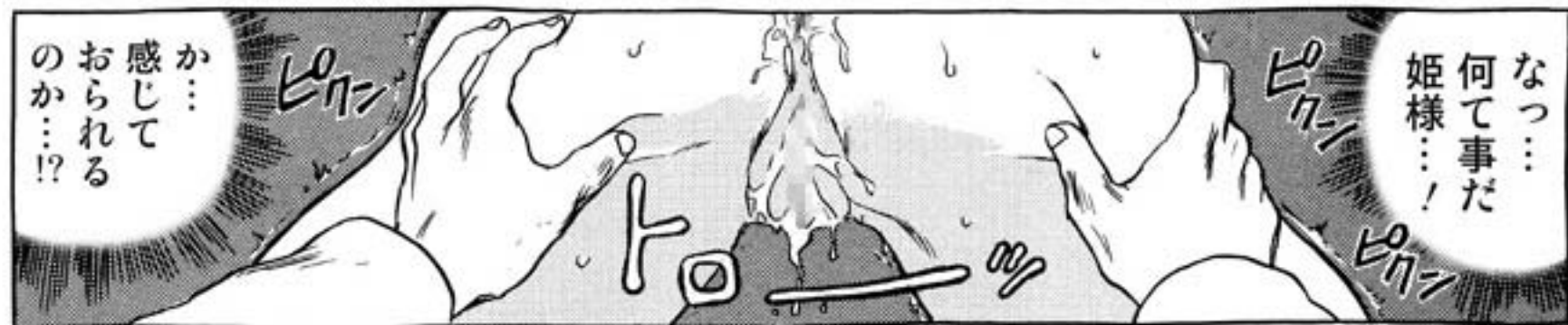


ひ…
姫様あ…



ここから
姫様は…

あんな
汚らしい
モノを…



なっ…
何て事だ
姫様…!

か…
感じて
おられる
のか…!?



…エエ!
姫様よオ



とんだ
女神も
いたもの
ですな…

ケツの穴で
感じる
とは…



ク…
ク…
ク…